

図－1はこのローカル新聞にしては視点が鋭い、勇気ある論調であると賛辞を贈りたい。

裏金事件張本人当事者の自民党は言うまでもなく、一部野党も「今更何なのだ?」「とっくに決着が付いたのだ、今更蒸し返すとは何の意図だ?」と不満タラタラがいるだろうと推測する。今は、国民の最大関心事は物価高対策だと言うだろう、それはそのとおりだ。だからといって「裏金事件をなかったことにする」というのはまさに論外である。目前の金銭的な物価高対応もあるが、人間にはもっと高尚・高度な精神的欲求がある。それは真善美に対する憧れ、真善美の究極を希求する飽くなき向上心である、それが万物の霊長たる所以である。そうした場合、自民党体質の社会道義を踏みにじり、国民の社会通念とは大きく乖離し、公序良俗の欠片も無い禽獣相当の政党・議員には鉄槌を喰らわす他はないのである。「裏金問題」は単なる不記載の問題ではない、そのような重要問題を軽微な不記載などと居直り・強弁するものだから、善良であるはずの国民にモラルハザードが生じるのである、悪質・陰湿・巧妙な犯罪が蔓延して行くのだ。

山形新聞

(第三種郵便物認可)

第50236号

2025(R7)/07/05

ヤマガタ目線

2025参院選

第1部:国政に望む

「政治とカネ」問題は政治不信の大きな要因で、昨年10月の衆院選でも大きな争点となった。政治家たちは十分な説明責任を果たしたのか。国民はこの問題をどう受け止めているのか。

「お金が絡むことで、必要とされている政策がゆがんだり、政治家や党の信頼が損なわれたりすれば残念だ」。村山市橋岡新町3丁目の自営業小畑ちひろさん(45)は関与が疑われた政治家らの姿勢に疑問を抱く。「誰のため、何のため政治をしているのか考えてほしい。国会などを見ていても揚げ足取りが多く、本来議論すべきことを話していない。やるべきことに集中してほしい」と厳しい目を向けた。政治学が専門の北川宗明山

裏金は論外 腐敗一掃を

① 政治とカネ

参院選は20日の投票開始へ舌戦が始まった。「政治とカネ」問題、米価高騰、就職氷河期世代への支援など山積する課題に、立候補者がどう向き合うのかを、有権者は見ている。県民の思いを聴き、争点に迫った。(本紙取材班)

形大名誉教授(右)は、この数年の自民党派閥裏金事件などを踏まえ、「政治は民意とかけ離れた現状にあるのではないかと指摘する。国民生活は新型コロナウイルス禍から物価高まで苦しさが増し、地方創生の成果は実感できずにいるとし、「『政治とカネ』問題は毎年のように繰り返され、政治が腐敗している。政治家が改善に向け議論を尽くしているか疑問だ」と語った。

日本世論調査会は参院選に関する全国郵送世論調査の結果をまとめた。投票先を決める際、「自民派閥裏金事件を考慮する」との回答は「ある程度」を含めて計45%に上った。問題の説明責任をどう果たし、改革していくのか。有権者は大きな関心を寄せている。

東京では昨年12月、政治団体「都議会自民党」が過去に開催した政治資金パーティーの収入に關し、裏金化した疑惑が浮上した。今年6月に行われた都議選(定数127)の結果は、自民が過去最低だった2017年の23議席を下回った。公認18人に会派の裏金事件などで非公認とした当選者ら4人を含めても、22議席にとどまった。

北川氏は都議選の結果を受けて、裏金問題への有権者の怒りは政治不信の根底にあるとする。「『政治とカネ』問題は当然争点にしなければならず、国民をこまかしてはとほり冷めるのを待つような政治であってはならない」と述べた。

南陽市赤湯で飲食店を営む神尾雄二さん(75)は「ある程度、政治にカネがかかるのは仕方ない面もあるのではないかと表情を曇らせて話した。もちろん報告書への不記載や裏金は論外で、正してほしいと願っている。『国会全体で議論を深めて、解決策を国民に分かりやすく示してもらいたい』と語った。

「誰のため」「何のため」を考えて

「政治とカネ」問題に有権者は大きな関心を寄せている
＝2024年11月、東京・永田町、衆議院本会議場



図－1

1(ohnuma kaoru)

私は完全無党派、換言すれば自民党から共産党までそれぞれに良い処はある。しかし、どう考えても裏金体質は許せない。

さて、中国明代の儒学者・高級官僚「王陽明」の思想を取り上げる。「知行合一」——知は行の始なり、行は知の成るなり（知ることは行為の始めであり、行為は知ることの完成である）、行動を伴わない知識は未完成である、知識を伴わない行動は軽率（軽挙妄動）である、の意である。——を提唱した陽明学は、日本の思想界や武士道、明治維新に大きな影響を与え、特に、実践的な行動を重視する思想は、幕末の志士たちに共感を呼び、倒幕運動や明治維新を推進する原動力となった。もう一つ有名なのが「^{ぼっぼん}拔本塞源論」、木を根本から引き抜き、水の流れの水源を塞ふさいで止めること。根本の原因を取り除いて弊害が再び起こらないようにするという哲学である、まさに今の自民党体質は「^{そくげん}拔本塞源」を以って改革する必要がある、その根本原因はまさしく「裏金腐敗体質」なのである、自民党のいう「決着」とは建前・表層の場当りの・弥縫策に過ぎないのだ。庶民・国民を黙割らす詐欺的行為なのだ。

そして図-2への繋がりである。大島さんのご意見に全くに賛同する。「事実」と「意見」を分けて、・・・なるほど！そして、山新の社是に掲げる高い理想・高い理念を踏まえ、社会の「ダークサイトに剣を向ける」べきはマスコミの役割という意見・主張を確立し、正々堂々と発信して行く、そのような山形新聞を期待している。図-1の論評を張り、図-2の投稿を採用して下さった山新に感謝したい。そのためには、日々の努力、自己研鑽、浄化・洗心の修行心に意を尽くして欲しい。

2025(R7)0708(火)
山形新聞
やましんサロン

「諦め」の人こそ投票しよう
■山形市 大島裕彦 62歳

国民が政治に興味がないのは、政治・政治家が国民に興味がないからである。政治は民意と相反することが多い。今で言えば、減税や物価対策。政府の説明は、財源がないので減税ができないの一点張り。でも、この5年から6年の間に税収は約20兆円増えているらしい。その理由はインフレによる値上げに伴う消費税収入増。円安による企業成績向上での法人税増。野党が公約に掲げている消費税率や社会保険料の引き下げも、この20兆円で賄えるとの試算もある。

これら声をさまざまな所から聞くが「財源なし」は変わらない。そもそも財源は増税だけなのか？ 国会費用、議員数の是正、衆参二院制の見直し、予算配分自体が適切なのかを含め、政治家が目向けなければならぬことは少なくないと思う。でも何も変わらない。だから有権者は期待をしない。選挙も行かない。「最低限、今の生活が守ればよい」となる。

しかし、この世紀末的な個人主義は、個々のモラル感に影を落とし世が乱れる原因になりかねない。そうして、日本という国と日本人の心は失われてしまう。そのダークサイドに剣を向けるのはマスコミであるべきだ。

あくまで私の考えだが、「事実」と「意見」を分けて発信すれば偏向報道ではない。そしてマスコミも含めて「諦めムード」は少なくない。政治が国民を「放置と無視し」、国民は政治に「諦め」を感じている。そんな諦めている人こそ投票すべきではないだろうか？

紙面編集・加藤靖子

図-2

偉そうに“裏金問題よりは政策が最優先だ”という人がいるが、政策うんぬんよりも先に問題にすべきは人間性だ、建前を振りかざし、公序良俗に平気で違背し、人を黙割らすねいじん性格は、立派そうに政策うんぬんを他人に語る資格はないのだ。今の自民党議員はみなこの部類だ、私は騙されない。

(end)